PARNASSIUS

No. 24

目　　次

淡路島産ハラゲビロウドコガネについて……高橋寿郎……1
ツマグロヒョウモンの異常型……林　俊雅……3
ゴイシシジミの飼育……堀田　久……4
洲本市の蝶類採集記録……林　俊雅……7
オオツノトンボを三熊山で採集……堀田　久……11
淡路の害虫　その(2)　サンカメイガ……藤富正昭……12
五色町広石地区のクロコノマチョウ……浅田　卓……13
スミナガシの第3化について……堀田　久……17
洲本市で採集された注目すべき蛾類3種について……登日邦明……18

淡路昆虫研究会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI

HYOGO JAPAN

January 1981

淡路島産ハラゲビロウドコガネについて

付　兵庫県産 Nipponoserica 属コガネムシの分布

（兵庫県甲虫相資料・87）

高　橋　寿　郎

従来カバイロビロウドコガネの名で知られていたグループ（Nipponoserica属）を1976年故野村　鎮氏は再検討されて日本産を7種に別けられた.

淡路島からのこのグループの記録は堀田　久氏が本誌に発表された2例がある（1974，1978）. 共にNipponoserica(Serica) similis lewis カバイロビロウドコガネとして記録された. 筆者はこの類の兵庫県での分布を知りたくて堀田氏に御願いしてその内の1♂標本を送って頂き見せて頂くことが出来た. ♂交尾器を摘出調べた所ハラゲビロウドコガネと同定すべきであるとわかった. 実は野村氏の論文で真のN. similisは四国，九州にのみ分布する種となっているので淡路島の場合或は真のN. similisがいるのではないかと期待をしていたのであるが残念ながら違っていた. 併しこのグループ個体数が余りとれないのでその分布もよくわかっておらず今後に期する所が大きいのでこの際淡路島をもふくめた兵庫県産のグループの分布を眺めて見ると同時に皆様方の注意を喚起すべく本報を発表させて頂くことにした.

本文を草するに当り貴重な標本を御恵送筆者の調査に御援助下さいました堀田　久氏の御好意に厚く御礼申しあげる.

ハラゲビロウドコガネ　Nipponoserica pubiventris Nomuraは初めに記した様に野村氏が1976年命名されたものである（Toho-Gakuho №26 pp.189~190, pl. VII , fig. 40, 41）. 分布は本州で原記載に使用されたparatypeの中には宝塚産1♂が含まれている（26-V-1974, M. Goto leg）.

淡路島産のものがN. similis （Lewis）ではないかと期待していたのであるが残念ながら本種であった. 私が堀田氏の御厚意で調べる事の出来た標本は登日邦明氏採集，津名郡大町産1♂（20-V-1966）の大変きれいな標本だった. 堀田氏は更に洲本市安乎町からN. similisで記録しておられるがこちらの方の標本は見せて頂いていないので何んとも

云えない．もう少々標本を数多く集めて見ないといけないがN．similis の分布の可能性はある様に思はれる．

さてそれでは兵庫県の他の地でのNipponoserica属（属の創設はNomura, S.Toho-Gakuho, №23：139, 1973）はどの種がいるのかということであるが何分こちらの方も標本が案外手許になく一応所有している標本全部の♂交尾器を摘出して調べて見た所その大部分がこのハラゲビロウドコガネであった．たゞ氷上郡神楽村で山本義丸氏が採集され御恵与頂いた2♂の標本（30－V－1953）の交尾器は完全にワタリビロウドコガネ Nipponoserica peregrina (Chapin)のものであった．従って現在兵庫県にはNipponoserica の属は2種を分布している事が確実になったわけである．

このNipponoserica属の分類は可成り困難で野村氏は♂交尾器の形は固定し，中間型が見られないこと，外部形態も僅かに差異が認められることによって7種に別けておられるのであるが♂交尾器の形状は必ずしも固定とは云いがたい様に思われ外部形態でもそれ程顕著な差異が認められるのかどうか可成り数多くの標本を検して見ないとよくわからない様に思われる．従って♂交尾器で同定する以外余り決め手がないグループである．真のカバイロビロウドコガネの標本を所有していないのでハラゲビロウドコガネとの区別は石田正明氏の報文（月刊むし，№108：20－21，1980）を見て頂きたい．

次に淡路島を含めた兵庫県産2種の産地を掲げておく．

○ Nipponoserica peregrina (Chapin)

ワタリビロウドコガネ

産地：氷上郡神楽村　（2♂，30－V－1953，Y．Yamamoto leg.）．

○ Nipponoserica pubiventris Nomura

ハラゲビロウドコガネ

産地：津名郡大町　（1♂，20－V－1966，K．Tobi leg）．宝塚市内〔野村，1976〕．神戸市鳥原（1♀，5－VI－1939，1♂，24－V－1953，1♀，5－V－1968，1♀，11－V－1975，1♀，27－V－1979，1♂，24－V－1980，1♂，27－V－1980，1♀，10－VI－1980）藍那（1♂，10－VI－1978），山の街（1♂，13－VI－1954，1♀，5－V－1955），妙法寺（1♀，23－VI－1979）．明石市明石公園（1♂，1♀，12－VI－1976）．宍粟郡波賀町音水（2♂，11－VI－1972）．

ただ兵庫県下からNipponoserica(Serica) similis Lewis カバイロビロウドコガネとして記録されたのが次の様にある．これらが真のカバイロビロウド

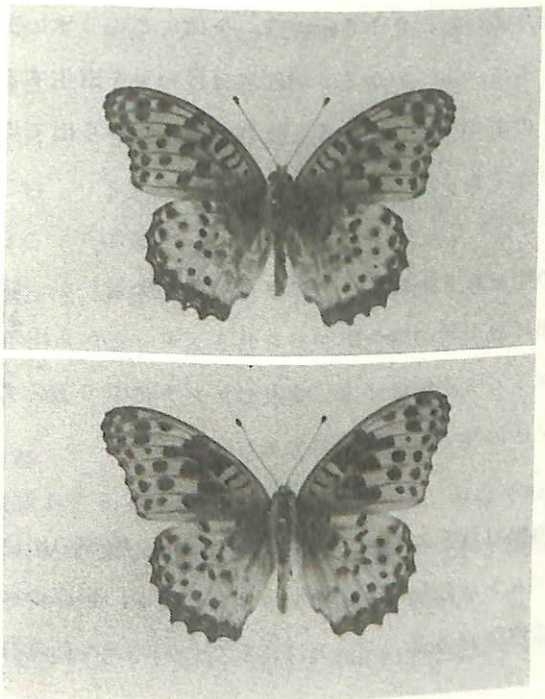
コガネかまたはハラゲビロウドコガネ，ワタリビロウドコガネなのか標本を検することが出来ないのでよくわからない．川西市大和，笹部〔仲田，１９７８〕，Hiogo〔Brenske，1897〕，神戸市磨那山〔増田，橋本，１９４１〕，出石郡伊東町佐々木〔高橋，１９６３〕，養父郡氷の山〔高橋，１９５９，１９７５〕．

以上現在の知見では兵庫県にはハラゲビロウドコガネが広く分布している種の様でありワタリビロウドコガネが産地は少いながらいると考えられる．また山岳地帯には違った種のいる可能性もあり淡路島には真のカバイロビロウドコガネを産する望みもあると考えている．

ツマグロヒョウモンの異常型

１９８０年９月１３日に，洲本市下加茂で，ツマグロヒョウモン（ Argyreus hyperbius Linnaeus ）の蛹を採集し飼育したところ，９月１６日に羽化し，異常の型の雄の個体であったので報告しておく．

又，後日同所において採集した，幼虫，蛹を飼育したが，異常型のような個体は見られなかった．



(上) 正常型♂表面

(下) 異常型♂表面

(林　　俊雅)

ゴイシシジミの飼育

堀　田　　久

筆者は本年（１９８０年）8月１０日，洲本市中川原町安坂でゴイシシジミ　Taraka hamada Druce の卵・幼虫・蛹を採集して飼育したので，これまでの野外における観察の記録と併せて報告しておきたい．

飼育方法

湿らせた吸取紙を敷いたシャーレーに幼虫を入れ，食餌としては中川原町安坂ならびに，洲本市安乎町浜のメダケに寄生するタケノアブラムシを与えた．なお，このアブラムシは，本種が発生していない地域で採集したメダケの葉にはどうしても寄生しなかった．

卵の形状

卵はタケノアブラムシが寄生するメダケの葉裏に１個ずつ産付されている．１枚の葉には普通１～２個の卵が見られるが，多いものでは５個の卵が認められた．

卵の概形は背の低い円柱状で，上面も平らに近く，卵殻面には網目状の弱い隆起が見られる．全体に白色で直径は約0.５㎜，高さは0.１㎜程度である．

１令幼虫

幼虫は卵の上面中央部にまるい穴をあけて脱出し，卵殻は食べない．孵化直後の幼虫は円筒型で，体長は約1.５㎜，頭の幅は0.１５㎜程度，全体にごくうすい黄褐色で透明に近く，餌をとると消化管が黒くなるのがよくわかる．胴部には長い毛を密生する．タケノアブラムシの群中でテントを作り，その中にひそんでいる，時たまテントから出て歩き回ることがあっても，すぐにテントに戻るようである．

２令幼虫

体長は約３㎜で頭の幅は0.３㎜程度，体はまだ円筒型に近いが，頭部は淡褐色で胴部の背面は灰色に変わり，各節には１対の暗色斑が見られる．テントから出ることは殆どなく，テントにかかった小さいアブラムシを捕食する．幼虫はテントの中で糞をするが，面白いことに頭でその糞を根気よくテントの外へ押し出すのである．

３令幼虫

体長は約６㎜で頭の幅は0.５㎜程度，胴部は扁平になり腹部の中央部で横幅が最も広くなる．長い毛にタケノアブラムシが分泌する白粉をつけているが，胴部の地色も白色で光沢がある．各節の背面に１対の暗色斑がある．テントは作らず，アブラムシの群中に静止してあまり移動

しないようである．

４　令　幼　虫

体色や形状は３令幼虫とよく似ているが，胸部と腹部の境付近で細くなり，腹部の第３節と第４節が最も広くなるので，全体としてはひょうたん型になる．各節の背面にある１対の暗色斑のうち，腹部の第１節と第６節のものが，特に黒くて目立っている．４令幼虫の食欲はものすごく，もりもりとタケノアブラムシを食べて体長は１１㎜程度になる．

頭の幅は約１㎜，４令幼虫も餌がある限りあまり移動しないようである．

前　蛹　と　蛹

前蛹の体長は約８㎜，全体に透明な感じの白色である．背面の暗色斑は殆ど消失するが，腹部第１節と第６節の斑紋は残っている．

孵化は，自然状態ではメダケの葉裏で行われるが，飼育した場合はメダケの葉上かシャーレーの壁面で行われる，尾端を糸につけて体を固定する．

蛹の概形は，体長に対して腹部の横幅が目立って広いため，下ぶくれのだるま型で腹端部は細くなって突出する．全体に淡褐色で，隆起した腹部の背面には褐色の輪のもようが見られる．体長は７㎜程度であるが，食餌の量が少ないと小型の蛹になり，体長５㎜程度のものがあった．

飼　育　経　過　の　１　例

飼育した中で，成長の最も早かったものの記録を次にあげておく．

１９８０年８月１０日	卵を採集
８月１１日	孵化（１令幼虫）
８月１３日	１眠起（２令幼虫）
８月１５日	２眠起（３令幼虫）
８月１７日	３眠起（４令幼虫）
８月２０日	前蛹
８月２１日	孵化
８月２８日	羽化（♀）

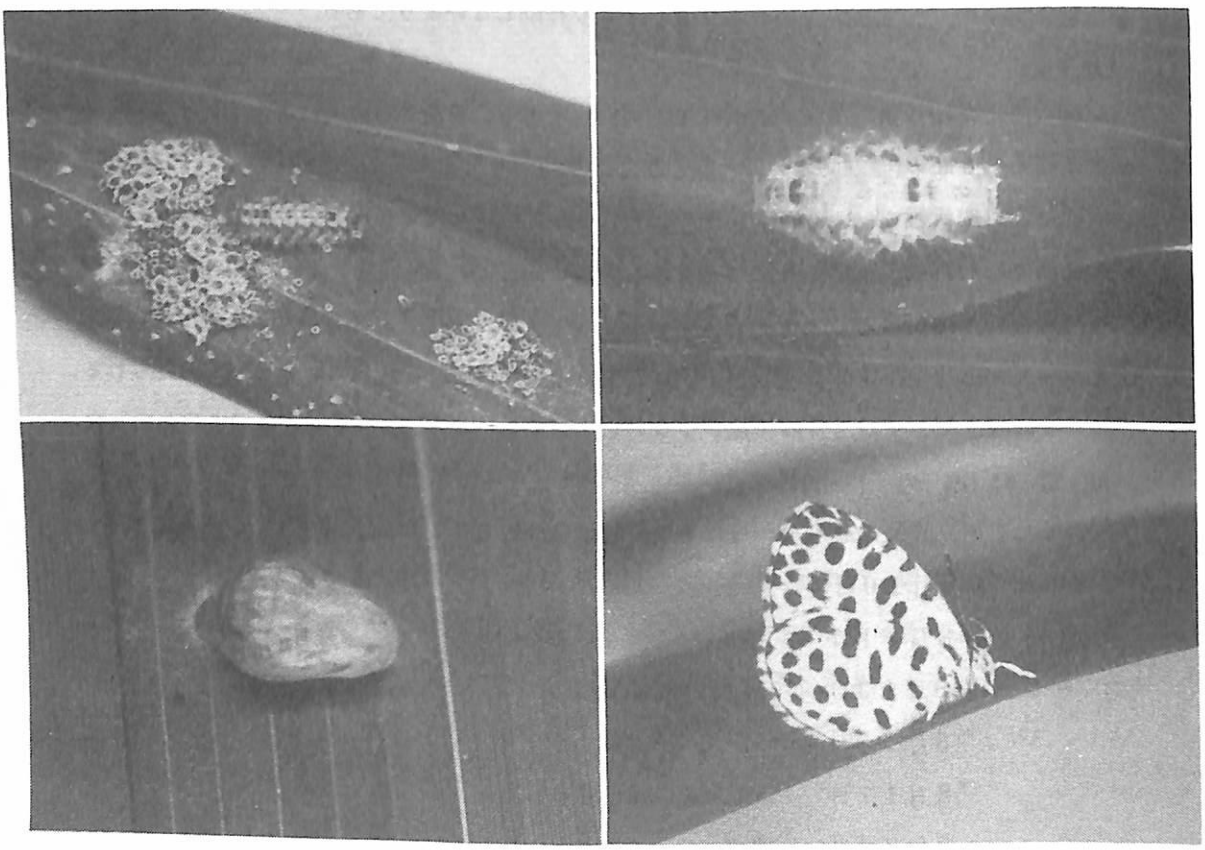
成　虫　の　活　動

羽化した成虫は，１時間もするとかなり飛べるようになる．野外での観察では，午前中はアブラムシの群生するメダケの葉裏に静止していることが多く，驚いて飛び立ってもすぐに近くの葉に止まる．

♂は夕方活動することが多いようである．淡路島ではまだ確認していないが，対馬での採集

のおり，本種の♂が夕方樹林内の空地で数頭が入り乱れて飛び回るのを目撃している．

なお，本種は年によって発生量の変動が著しいと言われるが，今年の夏は島内の各地にタケノアブラムシが多数発生し，それにともなって成虫の個体数も多くなったようである．



ゴイシジミの４令幼虫（左上）　前蛹（右上）　蛹（左下）　成虫♀（右下）

洲本市の蝶類採集記録

林　　俊　雅

１９８０年に，洲本市内で採集した蝶類の記録を報告する．標本はすべて筆者が保管している．

＜ Papilionidae　アゲハチョウ科 ＞

1. Graphium sarpedon nipponum FRUHSTORFER　アオスジアゲハ
   1♂, 宇山, 17. VII. 1980
   1♀, 宇山, 15. VII. 1980
2. Papilio xuthus LINNAEUS　アゲハ
   1♂, 宇山, 28. IV. 1980
   1♀, 宇山, 29. IV. 1980
3. Papilio bianor dehaanii C. & R. FELDER　カラスアゲハ
   1♂, 宇山, 13. VII. 1980
   1♀, 宇山, 10. V. 1980
4. Papilio machaon hippocrates C.& R.FELDER　キアゲハ
   1♀, 宇山, 3. IX. 1980
5. Papilio protenor demetrius FRUHSTORFER　クロアゲハ
   1♀, 宇山, 10. VII. 1980
6. Atrophaneura alcinous KLUG　ジャコウアゲハ
   1♂, 下加茂, 25. IV. 1980
   1♀, 宇山, 11. V. 1980
7. Papilio memnon thunbergii VON SIEBOLD　ナガサキアゲハ
   1♂, 宇山, 11. V. 1980
   1♀, 太郎池, 12.VII. 1980
8. Papilio helenus nicconicolens BUTLER　モンキアゲハ
   1♂, 宇山, 27. V. 1980

< Curetidae ウラギンシジミ科 >

9. Curetis acuta paracuta DE DICEVILLE ウラギンシジミ

1♂, 宇山, 17. VIII. 1980

< Lycaenidae シジミチョウ科 >

10. Lampides boeticus LINNAEUS ウラナミシジミ

1♂, 宇山, 25. X. 1980

*11. Taraka hamada DRUCE ゴイシシジミ

2♂, 宇山, 6. VIII. 1980

1♀, 宇山, 5. VIII. 1980

2♂, 宇山, 7. VIII. 1980

1♀, 先山, 17. VIII. 1980

12. Everes argiades hellotia MÉNÉTRIES ツバメシジミ

1♂, 下加茂, 18. IV. 1980

1♀, 下加茂, 25. IV. 1980

13. Rapala arata BREMER トラフシジミ

1♀, 山手, 26. IV. 1980

2♀, 宇山, 3. V. 1980

1♀, 三熊山, 3. V. 1980

14. Lycaena phlaeas daimio SEITZ ベニシジミ

1♂, 宇山, 27. III. 1980

1♀, 宇山, 24. III. 1980

15. Pseudozzizeeria maha argia MÉNÉTRIES ヤマトシジミ

1♂, 宇山, 12. VIII. 1980

1♀, 宇山, 12. VIII. 1980

16. Celastrina argiolus ladonides DE L'ORZA ルリシジミ

1♂, 宇山, 12. VIII. 1980

＊ PAR.(23)に報告したものの再録である.

＜Satyridae　ジャノメチョウ科＞

17. Mycalesis francisca perdiccas HEWITSON　コジャノメ
　1♂, 宇山, 18. VIII. 1980
18. Neope goschkevitschii MÉNÉTRIES　サトキマダラヒカゲ
　1♂, 下加茂, 12. Ⅳ. 1980
19. Lethe sicelis HEWITSON　ヒカゲチョウ
　1♂, 下加茂, 12. Ⅵ. 1980
20. Ypthima argus BUTLER　ヒメウラナミジャノメ
　1♂, 宇山, 18. VIII. 1980
　1♀, 宇山, 18. VIII. 1980
21. Mycalesis gotama fulginia FRUHSTORFER　ヒメジャノメ
　1♂, 宇山, 18. VIII. 1980

＜Pieridae　シロチョウ科＞

22. Eurema hecabe mandarina DE L' ORZA　キチョウ
　1♂, 宇山, 31. III. 1980
23. Pieris melete MÉNÉTRIES　スジグロシロチョウ
　1♂, 宇山, 17. Ⅶ. 1980
　1♂, 宇山, 25. Ⅹ. 1980
24. Anthocharis scolymus BUTLER　ツマキチョウ
　1♂, 宇山, 26. Ⅳ. 1980
25. Colias erate poliographus MOTSCHULSKY　モンキチョウ
　1♂, 宇山, 29. Ⅳ. 1980
　1♀, 宇山, 29. Ⅳ. 1980
26. Pieris rapae crucivora BOISDUVAL　モンシロチョウ
　1♂, 宇山, 26. III. 1980
　1♀, 宇山, 27. III. 1980

＜Hesperiidae　セセリチョウ科＞

27. Choaspes berjaminii japonica MURRAY アオバセセリ

1♂, 三熊山, 1. VIII. 1980

1♀, 三熊山, 23. VIII. 1980

28. Parnara guttata BREMER & GREY イチモンジセセリ

1♂, 宇山, 12. VI. 1980

29. Potanthus flavum MURRAY キマダラセセリ

1♂, 下加茂, 11. VI. 1980

30. Thoressa varia MURRAY コチャバネセセリ

1♂, 宇山, 18. VII. 1980

31. Pelopidas mathias oberthueri EVANS チャバネセセリ

1♂, 宇山, 4. V. 1980

32. Isoteinon lamprospilus C.& R. FELDER ホソバセセリ

1♂, 宇山, 13. VII. 1980

< Nymphalidae タテハチョウ科 >

33. Vanessa indica HERBST アカタテハ

1♂, 宇山, 15. VIII. 1980

34. Polygonia c-aureum LINNAEUS キタテハ

1♂, 下加茂, 4. VI. 1980

1♀, 下加茂, 4. VI. 1980

35. Hestina japonica C.&.R. FELDER ゴマダラチョウ

1♂, 宇山, 14. VII. 1980

1♀, 宇山, 27. VII. 1980

36. Neptis sappho intermedia W. B. PRYER コミスジ

1♂, 三熊山, 3. V. 1980

1♀, 三熊山, 3. V. 1980

37. Dichorragia nesimachus nesiotes FRUHSTORFER スミナガシ

1♂, 三熊山, 24. VII. 1980

38. Argyreus hyperbius LINNAEUS ツマグロヒョウモン

1♂, 宇山, 7. IV. 1980

1♀, 下加茂, 12. IX. 1980

39. Cynthia cardui LINNAEUS ヒメアカタテハ

1♂, 宇山, 12. VI. 1980

1♀, 池ノ内, 15. VI. 1980

40. Damora sagana ilona FRUHSTORFER メスグロヒョウモン

1♂, 宇山, 15. IX. 1980

1♀, 宇山, 28. IX. 1980

41. Kaniska canase no – japonicum von SIEBOLD ルリタテハ

1♂, 宇山, 17. VIII. 1980

< Libytheidae テングチョウ科 >

42. Libythea celtis celtoides FRUHSTORFER テングチョウ

1♂, 三熊山, 22. VII. 1980

1♂, 先山, 16. VIII. 1980

1♂, 宇山, 5. X. 1980

< Danaidae マダラチョウ科 >

43. Parantica sita niphonica MOORE アサギマダラ

1♂, 古茂江, 3. VI. 1980

1♀, 三熊山, 21. IX. 1980

オオツノトンボを三熊山で採集

オオツノトンボ Protidricerus japonicus は, 本州・四国・九州の山地に分布するもので個体数の少ない種である. 淡路島からは未記録であったが, 筆者は三熊山の中腹で本種の♂を1頭採集したので報告しておく.

なお, 標本は筆者が保管している.

採集年月日 1980年8月21日 採集場所 三熊山の北斜面, 標高約50 mの地点

(堀田 久)

淡　路　の　害　虫

その(2)　サンカメイガ（Schoenobius incertulas Walker）

藤　富　正　昭

サンカメイガ（イッテンオオメイガ，　幼虫のことをサンカメイチュウと呼んでいる．）は，九州南部から紀伊半島南部にかけての温暖な地方の水田で生息し，年２～３世代の生活環をもつ水稲単食性の害虫である．

淡路島における初発見は，記録によると，明治３３年秋現在の南淡町福良，阿万においてである．そして翌明治３４年には，現在の北淡町室津をはじめ津名郡各地でみつかっており，おそらく明治３０年代初め頃に，四国より分布圏が拡大したものと考えられる。

淡路島へ侵入して以来，発生の多少はあったものの，分布圏を拡大し，昭和２５年には，明石で確認されるに至った．この頃，淡路島におけるサンカメイガの激しい被害が島内各地でみられ，兵庫県は「淡路島に於ける三化めい虫絶滅対策」を実施した．当時の様子を記録した雑誌「植物防疫」（Vol.7　No. 8～9）をみると，米の生産拡大が，国策の中心課題の１つであり，米の消費が減って水田転作が奨励される昨今と比ぶべきもない．

昭和２６～２７年に実施されたこの事業は，何千年も続いた淡路の水稲作付体系を根底からくつがえし，完璧な作付統制を実施し，サンカメイガの撲滅をはかろうとしたものであり，農家や市町村そして新聞も，厳しい統制の実施に反発したが，農業改良普及員や農業委員の不眠不休の努力で，実施に移された．作付統制の第１は，全島の田植時期を６月２５日以降とした．このため島外から１０００名を越える早乙女が動員された．そして第２点は，ＤＤＴ乳剤の４～５日毎に６回連続散布の実施である．

現在の農薬安全使用の考え方からみると，背筋の寒くなるような使用が行なわれた．

ともあれ，徹底的な絶滅対策の実施により，淡路のサンカメイガは，昭和２７年ほぼ絶滅したと記録されている．

それ以後，淡路島のサンカメイガの発生は，ほとんどみられず，今日に至っている．

今日，淡路にサンカメイガは，いないのかといえば，そうでない．昭和２６～２７年のこの事業の網をくぐり，そしてその後の稲作の大きな変化に耐えて生き残ったサンカメイチュウが，淡路島の北端，淡路町田之代地区の棚田に細々と生残っている．

淡路町のサンカメイガは，全国のサンカメイガの分布圏の北限ではないかと思われ，その意味では貴重な存在である．

五色町広石地区のクロコノマチョウ

浅　田　　卓

淡路島におけるクロコノマチョウ（Melanitis phedima CRAMER）の記録は，１９７１年８月武田義明氏が洲本市相川で採集されて以来，筆者採集分を含めて現在まで６例（成虫）を教えている．

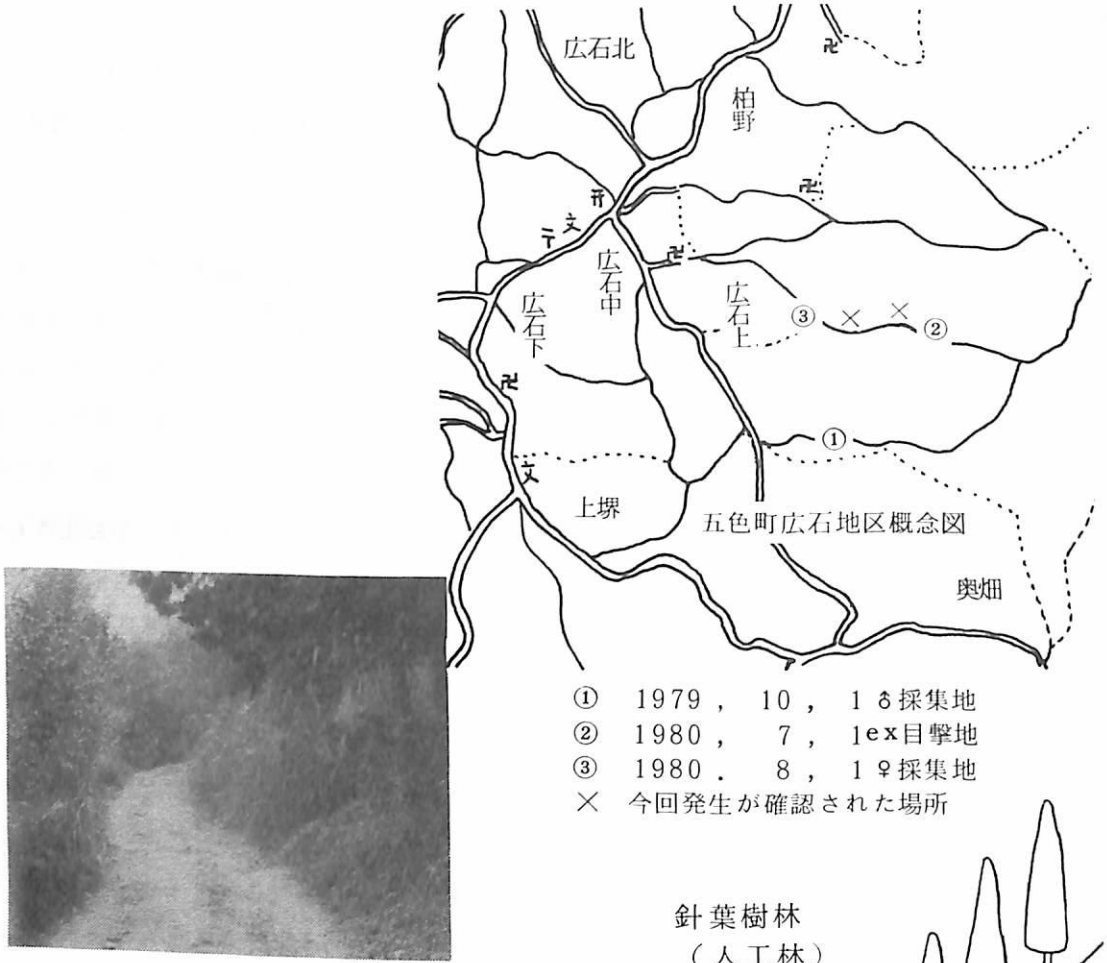
1. 洲本市相川，１♂，Ⅷ．１９７１，武田[1)]
2. 三原郡南淡町大川〔左前翅を拾う〕１６．Ⅺ．１９７４，山崎[2)]
3. 三原郡南淡町新田北，１♂，３０．Ⅹ．１９７７，浅田[3)]
4. 洲本市物部，１♂，６．Ⅸ．　１９７８，堀田[4)]
5. 津名郡五色町広石中，１♂，１１．Ⅹ．１９７９，浅田[5)]
6. 津名郡五色町広石中，１♂，２．Ⅷ．１９８０，浅田[6)]

１９７９年１０月，津名郡五色町での採集記録は島内における，それまでの最北のものであった．しかし，当日は台風一過間もない頃であり，島外又は島内の南部から飛来したことも考えられるので，果たして同地にて発生した個体なのかどうかは不明であった．ところがその採集地に隣接した谷筋で，１９８０年７月１頭目撃，さらに８月１♀を採集するにいたってあるいは同地にて土着？の希望が見えてきたのである．淡路島における本種の採集例はすべて成虫であったので，食草が何であるかを含めて他のステージの発見は土着を確認する上からも意義は大きいと思われた．

食草としては，ススキ・ジュズダマ・アブラススキ・チョウセンカリヤス・カリヤスモドキ・チヂミザサ・アシボソ・メヒシバ・ササキビなどのイネ科，カヤツリグサ科のナルコビエなどが知られている．[7)]広石中の谷筋では，幼虫の好むとされている「常緑広葉樹林の周辺の小さな溝ぎわなどに生えたススキの孤立した群落」[8)]が点在しており，まずこれらを中心に調査した．

８月２４日，１♀を採集した日より約３週間経過，やや汚損個体であったこと，次世代の発生時期から考え合わせて幼虫期であることが予測された．同地はＶ字渓谷に近く，終日日光の直射しにくい地点も多いため，そうした箇所に自生するススキ群落に目標をしぼった．まず１♀採集地点のススキ葉裏から，真黒な頭をした中令幼虫が発見された．頭部に棒状突起１対をつけ，体長２０㎜程である．当然付近にまだひそんでいると思われたが他にはおらず，さらに奥へと進んだ．７月の目撃地点に近づくと，今度は体長５０㎜に達するかと思われる終令幼虫が発見された．常に頭を下に向け，葉裏に静止する幼虫はこの後極せまい範囲

で次々と見つかった．慣れて来ると終令の食痕は極めて明白で，ススキの葉脈を残し，片側，あるいは両側がなくなっている付近には必ず幼虫がいた．結局この日は，中令１頭を含めて１２頭，８月２６日の再調査で終令１頭を加えた．



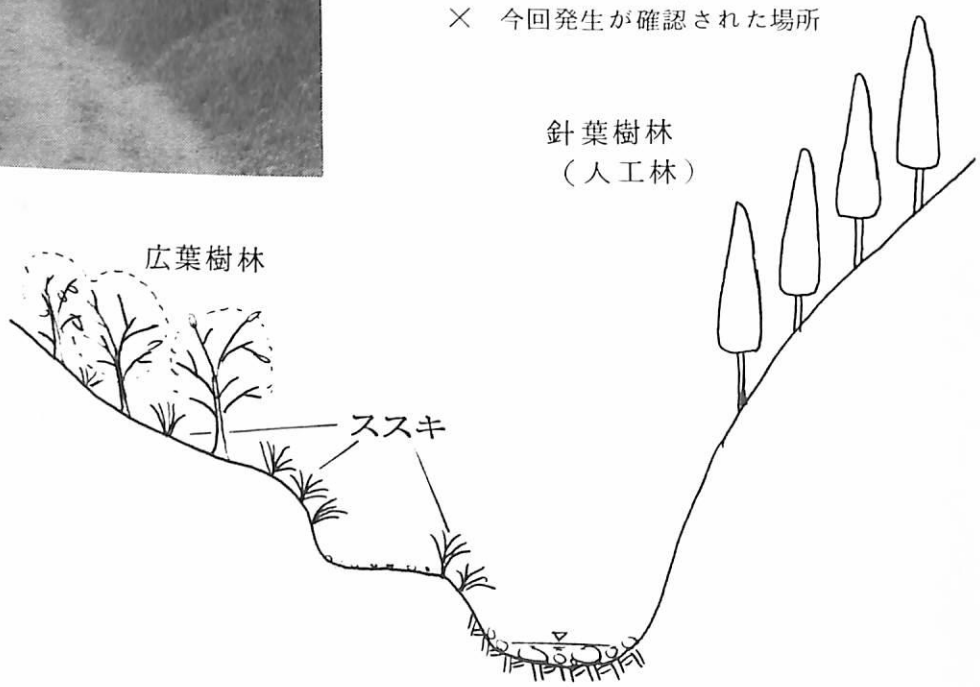


Fig. 1　クロコノマチョウ幼虫棲息地－五色町広石－（上）と模式図（下）

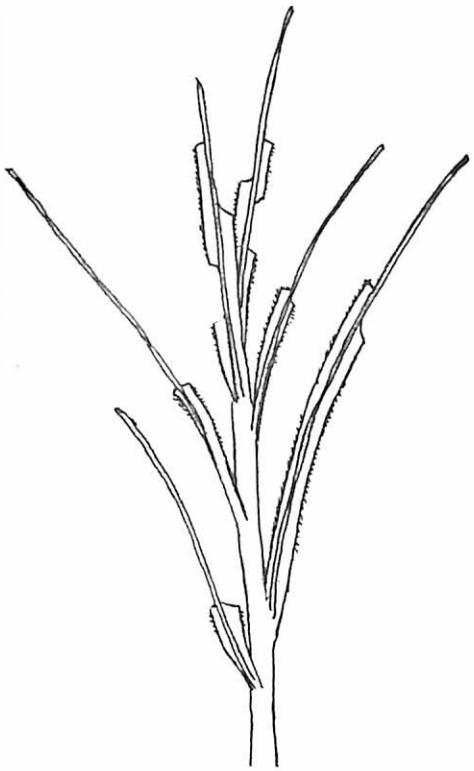


Fig. 2.　クロコノマチョウ
終令幼虫の食痕（ススキ）

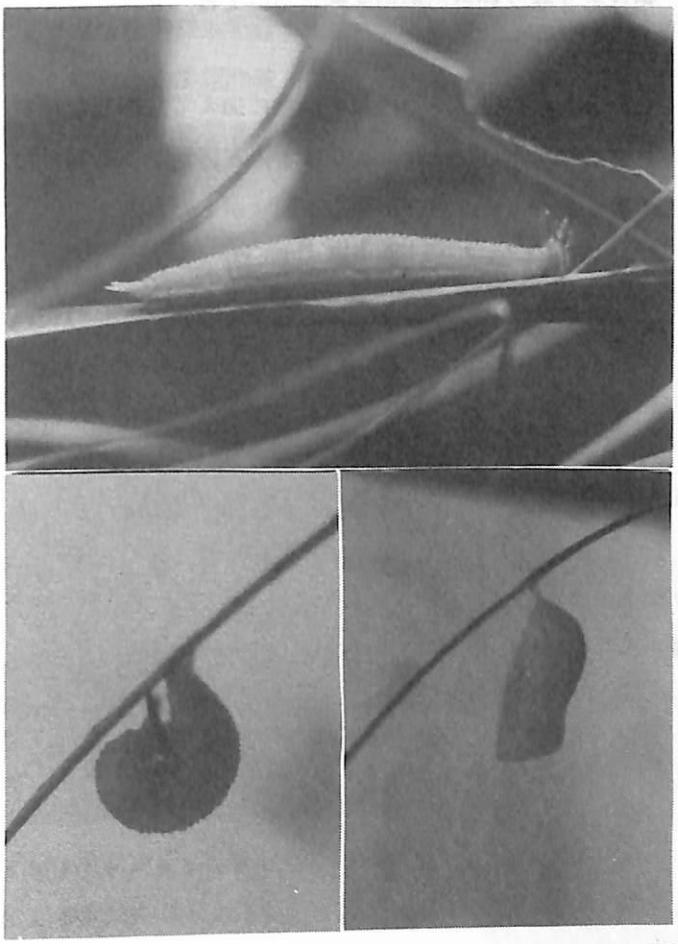
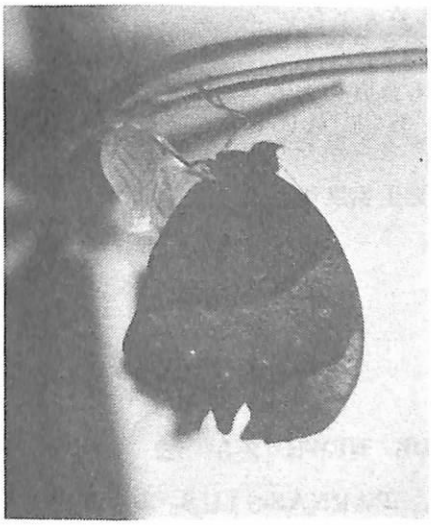


Fig. 3　クロコノマチョウの幼虫（上）前蛹（左下）　蛹（右下）



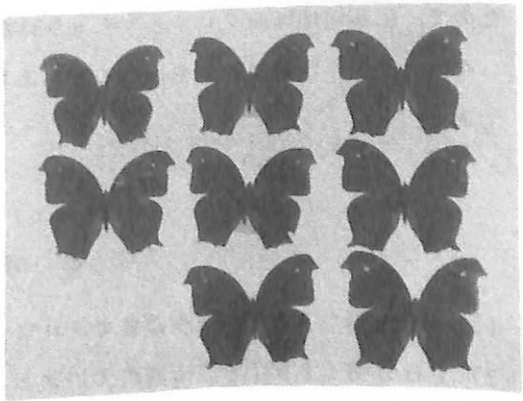


Fig. 4. 羽化直後のクロコノマチョウ（左）と羽化した♂♀（右）

飼育方法は，大きなボール箱にススキの水差しを入れた簡単なものだったが，２６日１頭２７日５頭，２８日３頭，２９日１頭が蛹化した．中令幼虫は２６日に死亡したが，友人に預けた２蛹２幼虫の他の８蛹については，９月５日４頭，６日３頭，８日１頭が無事羽化した．

終令幼虫には，その体色の濃淡に加えて，頭部に極めてバラエティに富んだ配色があるなど個体変異がめだった．蛹はほとんど区別がつかないが，幼虫の頭部の変異が，成虫の個体変異とどのような関係があるか興味がもたれる．

Fig. 5　クロコノマチョウの幼虫頭部脱皮殻の変異

その後，数回同地を訪れたが，成虫，幼虫とも新たに発見することはできなかった．しかし，当初幼虫がいた谷沿いの道の山側，樹林の下草として自生するススキにもおびただしい食痕があり，昨年，今年と成虫を採集したのとは別の谷筋からも食痕のあるススキを発見したので，広石中地区のクロコノマチョウはかなり広範囲に棲息すると思われる．

今後は，周年同地で調査を行うことにより発生経過，さらに発生密度等も追っていく所存である．

参考文献

1）登日邦明（１９７１）淡路島でクロコノマチョウ採集，MDK NEWS ２３ (2)

2）登日邦明（１９７５）南淡町大川にクロコノマチョウ産す，PARNASSIUS №14

3） 浅田卓（１９７７）南淡町大日ダムでクロコノマチョウ採集，PARNASSIUS №18
4） 堀田久（１９７８）洲本市内でクロコノマチョウを採集，昆虫と自然　13 (13)
5） 浅田卓（１９８０）津名郡にてクロコノマチョウ採集，PARNASSIUS №22
6） 浅田卓（１９８０）コノマチョウ属２種の採集記録について，PARNASSIUS №23
7） 川副昭人・若林守男（１９７６）原色日本蝶類図鑑，保育社・大阪
8） 福田晴夫ほか（１９７２）原色日本昆虫生態図鑑(Ⅱ) チョウ編，保育社・大阪

スミナガシの第３化について

スミナガシ Dichorragia nesimachus は，本州においては年２回の発生が普通である．

筆者は本年（１９８０年）８月２１日，洲本市三熊山で本種の１令および２令幼虫数頭を採集し，ヤマビワの葉を与えて飼育していたが，１０月１日に第３化の♂が羽化したので報告しておく．なお，同じ頃蛹化した他の蛹はそのまま越冬中である．

第３化の飼育記録

１９８０年８月２３日	１眠起（２令幼虫）
８月２７日	２眠起（３令幼虫）
８月３１日	３眠起（４令幼虫）
９月　５　日	４眠起（５令幼虫）
９月１８日	前蛹
９月１９日	蛹化
１０月　１　日	羽化

（堀田　　久）

洲本市で採集された注目すべき蛾類３種について

登　日　邦　明

この度，柳学園高校に在学中の林　俊雅君が，洲本市内で採集した蛾類のコレクションを見せていただいたところ，比較的珍しい下記の種を見出したので，公表しておきたい．

① Natada arizawa Wileman クロスジイラガ

Uyama, Sumoto., lex., 4. X. 1980 (T. Hayashi leg)

日本ではInoue（１９６５）が，沖縄及び鹿児島市と三重県滝原で記録したのが最初で，その後，河上（１９６７）が高知県足摺岬でも採集しており，国外では台湾に分布することが知られている．

② Sugitania lepida Butler スギタニモンキリガ

Monobe, Sumoto, lex., 22. XI. 1980 (T. Hayashi leg)

晩秋に出現する蛾で，本州，四国，九州に分布するが，いずれの地でも希な種とされている．

③ Nyctemera plagifera Walker モンシロモドキ

Uyama, Sumoto, lex., 10. X. 1980 (T. Hayashi leg)

熱帯・亜熱帯性の昼飛性の蛾で，兵庫県下でも須磨から記録されて久しい．
島内では藤平　明氏（１９７３，１９７９）が南淡町阿万と灘から合計３頭記録しており，筆者（１９７４）も洲本市畑田で１頭採集しているので，今回のものが５頭めということになる．

尚，これらの標本は林君の御厚意で，現在は筆者が保管している．貴重な標本を快く提供

された同君に厚くお礼申し上げる.

参考文献

1. Inoue, H.（1965）LIST OF MOTHS FROM THE RYU-KYU ISLANDS. 昆虫33(3)：351－363.
2. 河上友三（1967）四国の蛾について(3). 蛾類通信(47)：470－474.
3. 藤平 明（1973）南淡の蛾. PARNASSIUS(11)：7－10.
4. ――――（1979）南淡の蛾. PP. 56, 自刊.
5. 登日邦明（1974）モンシロモドキを上灘畑田で採集. PARNASSIUS(13)：8.

編 集 後 記

▽ '80年度の2号めをお届けします. ここしばらく活動がやや低調でしたが, 今回は多くの人々から貴重な報告をいただき, 内容豊かな号になりました. 投稿下された諸兄に厚くお礼申し上げます.

▽ 1981年は本会にとって創立15周年に当たります. 計画中の記念事業の中に, 本誌の記念号の発行も含まれています. 奮って御寄稿下さい. （T）

PARNASSIUS No. 24

1981年1月10日 印刷　　1981年1月14日 発行

編集者　登日邦明

発行所　淡路昆虫研究会

〒656－21 兵庫県津名郡津名町大町畑235 登日方

郵便振替　神戸 49591

印刷所　れいめい社

〒656 洲本市本町5丁目1－24